

「地図豆」の地図を広げて街歩き

## 114-2 神田川のみなもとまで 2 中流(12.0km)

### 【街歩きの概要】

井の頭池の湧水を源として東へと流下し、隅田川に注ぐ神田川をひたすら歩く。

第二回は、(高田馬場駅)さかえ通り・清水川橋あたりから、熊野神社・龍光寺(永福町駅)までをたどる。



滝澤橋辺りの案内看板

### 地図豆知識：神田川（共通）

神田川は、三鷹市の井の頭池を源として流下し、善福寺川、妙正寺川を合流したのち、JR 水道橋駅付近で日本橋川を分派し、隅田川に注ぐ全長約 25km の河川である。

かつては、神田川の関口大洗堰から上流部分を「神田上水」、同堰から飯田橋付近までを「江戸川」、さらに下流を「平川」あるいは「神田川」と呼んでいた。それは飯田橋から下流部分が 1660 年に「平川放水路」として人工的に開削されたからである。

最近では、都市化に対応する流下能力を增强するため、江戸川放水路、高田馬場放水路（下落合）、水道橋放水路などが、さらには本流の「環状七号線地下調整池」だけでなく、善福寺川、妙正寺川にも地下調整池が建設されている。

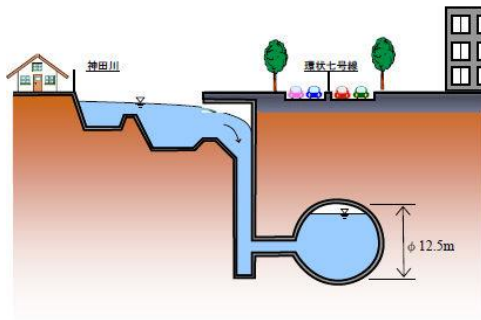


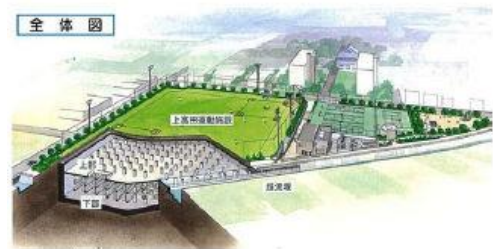
図 2-2 神田川・環状七号線地下調節池概念図



上高田調節池 写真



神田川・環状七号線地下調節池

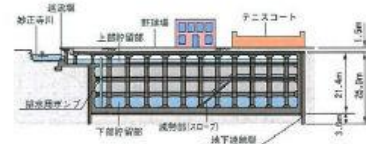


上高田調節池 全体図



神田川取水施設取水状況

断面図



上高田調節池 断面図

## 「地下調節池」について

### 【道順】

高田馬場駅→さかえ通り・清水川橋→田島橋先旧河道→神田川・妙正寺川の落合→（滝澤橋）せせらぎ公園→観音寺旧河道崖→小滝橋交差点→東中野小学校跡旧河道崖・水神之碑→新開橋-新開橋・柏橋間旧河道→柏橋-末広橋旧河道→末広橋神田川歌碑→末広橋先旧河道→淀橋→成願寺→八津御嶽神社・距離標 13km→中野新橋→富士見橋→神田川・善福寺川分岐→弥生町河道崖→東京メトロ中野検車区（車両基地）→多田神社・宝福寺→三角点「雑色」→東運寺→神田川方南橋取水口→和泉 4 丁目河道崖→熊野神社・龍光寺→蔵下橋→永福町駅

### 【街歩き解説】

・さかえ通り・清水川橋

JR 高田馬場駅から北へ向かい、神田川（旧神田上水）の旧河道である、さかえ通りを抜

けて清水川橋へと出る。旧河道であることは、何よりも現地の風景を見ると予想できるが、下記地形図(明治42年)などを参照することで明らかである。



さかえ通り / 清水川橋から(下流方向)JRを望む

#### ・田島橋

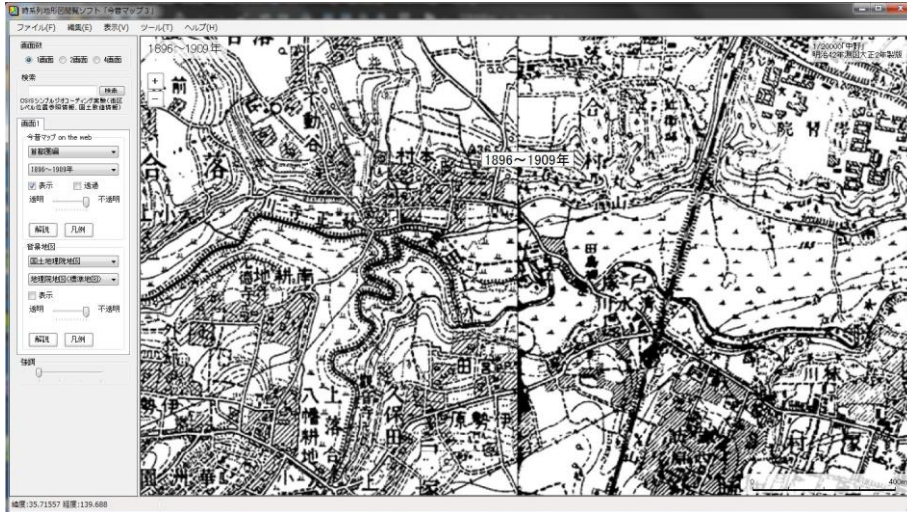
田島橋脇の説明板によると、その由来は江戸時代、鼠山(現豊島区)に下屋敷があった安藤但馬の守がよくこの橋を渡ったため、「但馬」を「田島」としてこの橋の名がついたといわれている。橋の上流には犀が淵という深い淵があって、江戸時代には高田十二景といわれる月の名所の一つとして知られていたとか。



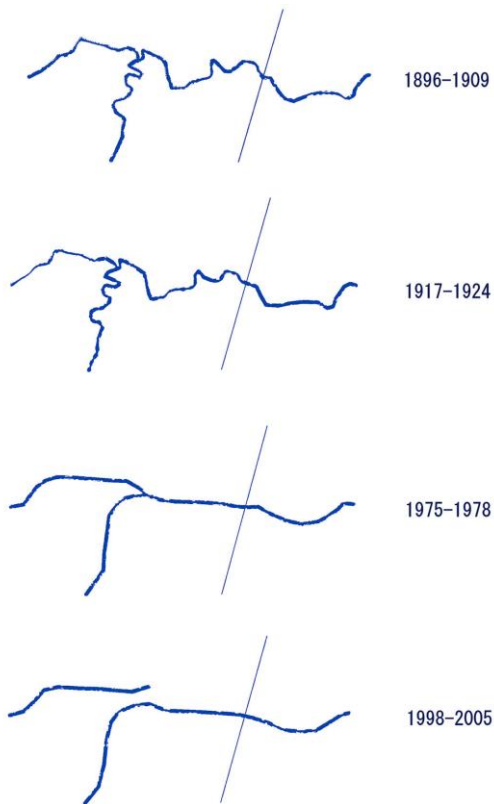
清水川橋から(下流方向)JRを望む / 田島橋先旧河道

#### ・神田川・妙正寺川の落合

落合という地名は、神田川と妙正寺川が落合う(合流する)地点であることから名づけられたと思われる。明治期の地図、これらを土台にした下記、流路の変遷見ると、神田川と妙正寺川は蛇行しながら、ここで合流していた。明治以降の河川改修工事によって、まず蛇行部分の直線化に着手し、その後分水することで洪水の減少を図ったことが明らかである。



妙正寺川と神田川の落ち合い(明治 42 年) (「今昔地図」から)



妙正寺川と神田川の流路変遷(「今昔地図」から) / 妙正寺川暗渠入口

#### ・小滝橋

その後、新堀橋、せせらぎ（橋）の里公園（左岸）、小滝公園（右岸）を見ながら早稲田通りが渡る小滝橋に向かう。同橋手前の左岸付近は、かつて小淀山（天狗山とも）と呼ばれ、伏見宮邸の敷地であったが、今は落合中央公園となっている。

小滝橋からは、桜並木が続く中の10か所ほどの小橋を過ぎると青梅街道が渡る淀橋（かつて小淀橋と呼ばれた）に出る。この左岸の道を「神田川四季の道」と呼ぶ。

途中、小滝橋と亀齢橋の左岸に位置する東中野小学校の東側通りには「水神の碑」が、さらに進んで中野三中手前は幕府指定の鷹狩り場を示す「中山立場跡碑」があるから、この辺りでは、西から神田川に落ちる旧河跡などを併せて見ながら、左岸のさらに西の道を通るといい。道なりに出て末広橋に出ると、末広橋の左岸には『神田川』歌碑がある。少し戻って、末広橋の下流にある柏橋手前右岸に個性的な人魚像を見ることができる。

『神田川』のモデルになった家並の風景は、末広橋から上流左岸でわずかに見られるほか、神田川沿いに位置する銭湯は淀橋の先、豊水橋左岸辺りで見ることができる。



「神田川」歌碑 / 神田川沿いのアパート

#### ・淀橋と淀橋水車

青梅街道が神田川を渡る大橋を淀橋という。

「江戸名所図会 / 淀橋水車」には、「成子宿と中野村との間に架す。大小二橋ありて、橋より此方に水車あり。昔大將軍家此地に御放鷹の頃、山城の淀に準擬、此橋を淀橋と唱べき旨上意あり、因て號とすといへり」とあって、かつては「姿身ずの橋」とか「いとま乞いの橋」とか呼ばれていたが、鷹狩に訪れた徳川家光が、景色が思い出させるの「淀橋」と改めるように命じ、以後そう呼ばれるようになったという。前出の(明治42年)地形図にも、この場所に水車の記号が読み取れる。

また、平成17年に新装なった淀橋の親柱には大正14年の文字が刻まれ、当時のものを再利用した旨が書かれている。

#### ・成願寺

山手通りが神田川を渡る長者橋の北には、白と赤が鮮やかな中華風の屋門が迎えてくれる成願寺がある。

「新編武蔵風土記稿」に「成願寺 除地、五百六十坪、村の東の方にあり、多寶山と號す、禪宗曹洞派にて相州大住郡田原村香雲寺の末、御朱印五石を附せらる、開基は正蓮居士俗稱鈴木九郎と云、世に中野長者と稱するはこの人の事なり、・・・」とあって、これが長者橋の由来となっている。

辺りに鈴木九郎が住まいした長者橋の北、神田川左岸段丘上（山手通り西）には成願寺があり、「江戸名所図会」に「中野長者正蓮墳墓 同じ境内叢林の中にあり、開基鈴木九郎の墓なり、其石塔今崩れて半ば土中に埋れてあり、・・・」のとおり、同寺に中野長者塚が存在する。また、同寺は鍋島家墓所でもある。

長者橋の先左岸の草花が並ぶ川べりの小道を西へととれば、次は東郷橋、桔梗橋と続く、近くのビル一角にある八津御岳神社がちょっと気になる。その後、花見橋の先で「すみだがわ 13.0km、みなもと 11.6km」を示す距離標を見ると間もなく（中野）新橋である。

#### ・新橋

新橋は、かつての花街のシンボルでもあった朱塗りの欄干、擬宝珠が健在である。なお、この界隈が二業指定地となったのは昭和3年で、土地区画整理事業開始と同じ年である。

「東京府志料」には、「板橋三 雑色村ニアリ・・・新橋長四間幅五尺」と明記があり、明治以降は大字雑色字新橋に属していた。



距離標 / 中野新橋 / 神田川と善福寺川の分岐地点

#### ・富士見橋

次は、近くに地下鉄中野富士見町駅がある富士見橋だ。

その後、神田川は次第に南へ折れ、善福寺川との合流地点を経て、右岸に中野車庫を見るところには、さらに南下する。川べりのコンクリート上には、金属製のカニ、サンショウウオ、カエルなどのモニュメントが散在する。

和田見橋先には、この辺りの水田引水に利用した本郷堰跡の碑があり、その先は神田川・

善福寺川分岐が良く見える。弥生町あたりの神田川の左岸の河道崖を感じさせる道を進むころには右岸に東京メトロ中野車両基地があり、多田小学校の北の道からは同基地が一望できる。さらに進んで、右岸高まりを少し進んだところには、宝福寺、多田神社があり、同社は雑色村の鎮守社だと記述のある看板が立つ。

そこでの説明によると、雑色（ぞうしき）とは、皇室の蔵を管理し、あるいは行事の実施を担当する役所に勤務する人々のことで、その雑色の人々に与えた給付地、あるいは天平時代の検地帳に「武州多東郡大宮之内雑色村」とあることなどから、大宮八幡宮の造営時に働いた人々の所有地であったことから、雑色村と呼ぶようになったと言われる。

宝福寺から神田川左岸に出て高まりの上には、個人宅内だから勝手には入れないが、三等三角点「雑色」があるから「点の記」が用意できていれば、捨て探してみるのもいい。

#### ・方南橋・東雲寺・環状七号線地下調節池

環状七号線が通る方南橋近くには、身代わり地蔵尊が残る東雲寺があり、災難除けと知られる。その山門は、元芝田村屋敷の脇門であった時、浅野内匠頭が通ったと伝えられる。

同じ左岸の環状七号線の西には、神田川取水施設管理棟（環状七号線地下調節池）がある。ここから妙正寺川と交差する野方までの 4.5km の間、環七通りの地下 50m には環状七号線地下調節池と呼ばれる 54 m<sup>3</sup> を貯水可能な地下トンネルが存在する。

辺りの右岸沿いには、神田川自転車歩行者道がある。



神田川取水施設 方南橋取水口

#### ・熊野神社・龍光寺

今回の歩きは、蔵下橋手前左岸にある熊野神社・龍光寺を訪ねて、蔵下橋から永福町駅へ出て終わりとする。

熊野神社は、文永 4 年（1267）に紀州熊野三社を勧請して創建と伝えられ、社殿は文久 3

年（1863）の造営である。境内にある黒松は、三代将軍家光のお手植えと伝えられる。

龍光寺は明応 2 年（1493）に開山したと伝えられ、龍光の名は井の頭池に住む竜が、川を下って当地に至り、雷光を放ちながら天に昇ったとの伝承に基づく。



龍光寺

蔵下橋から、次の永福橋辺りまでの左岸流域は、この辺りにあった寺にちなむ「日照寺田圃」と呼ばれていた。また、辺りの右岸は、「御蔵下」と呼ばれていた。それは、段丘上には幕府の焔硝蔵（和泉新田御焔硝蔵、明治には陸軍省和泉新田火薬庫（前出地形図 明治 42 年））があったことにちなむもの。その後、昭和 5 年（1930）には、その東半分が明治大学和泉校舎となった。こうした経緯のことからか、太平洋戦争末期の一時期には、陸地測量部が同校舎に疎開している。

・永福町駅へ



## 神田川の橋名一覧（二）

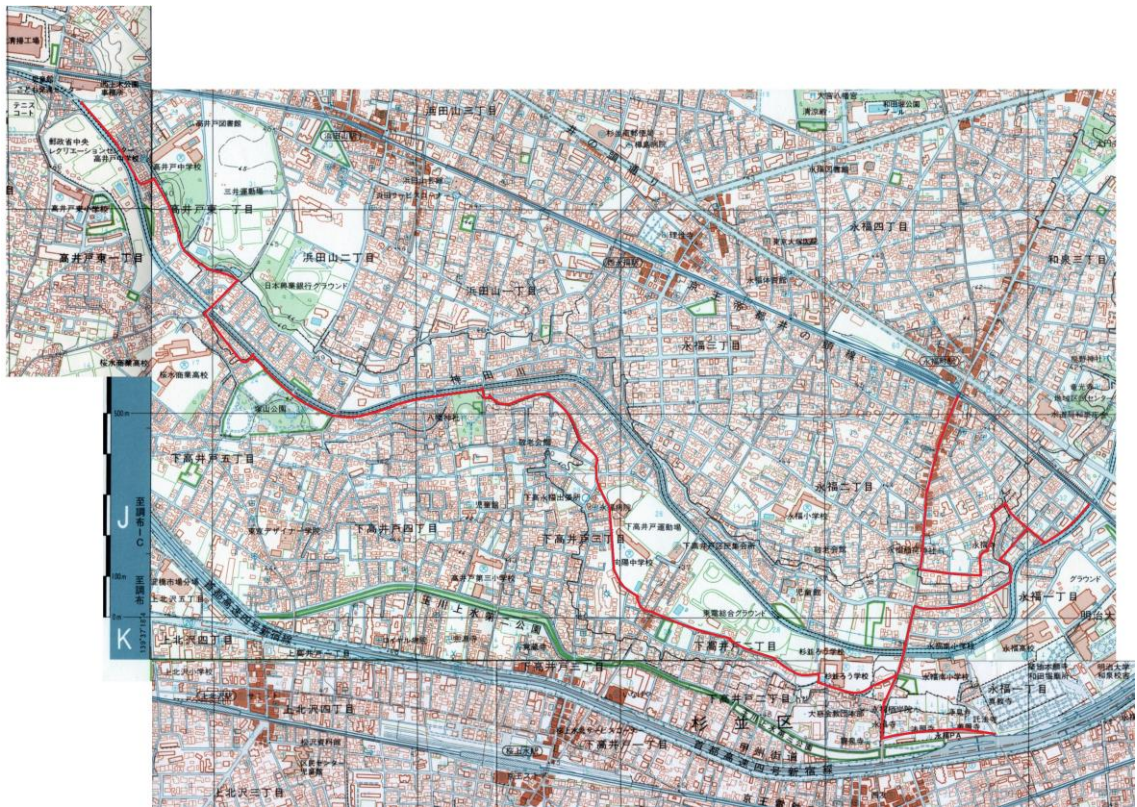
橋名	所在地名（右岸）
高塚橋	豊島区高田
神高橋	豊島区高田
清水川橋	新宿区下落合
田島橋	新宿区下落合
宮田橋	新宿区下落合
落合橋	新宿区下落合
瀧澤橋	新宿区下落合
新堀橋	新宿区下落合
せせらぎ橋	新宿区上落合
久保前橋	新宿区上落合
小滝橋	中野区東中野
亀齡橋	中野区東中野
南小滝橋	中野区東中野
大東橋	中野区東中野
万亀橋	中野区東中野
新開橋	中野区東中野
柏橋	中野区東中野
末広橋	中野区中央
伏見橋	中野区中央
栄橋	中野区中央
淀橋	中野区本町
豊水橋	中野区本町
相生橋	中野区本町
菖蒲橋	中野区本町
宝橋	中野区本町
長者橋	中野区本町
東郷橋	中野区本町
桔梗橋	中野区本町
皐月橋	中野区本町
中ノ橋	中野区本町
月見橋	中野区本町
花見橋	中野区本町
桜橋	中野区本町

新橋	中野区本町
永川橋	中野区本町
千代田橋	中野区本町
柳橋	中野区本町
本郷橋	中野区本町
壽橋	中野区本町
高砂橋	中野区本町
富士見橋	杉並区和田
和田見橋	杉並区和田
栄橋	中野区南台
角田橋	中野区南台
神田橋	中野区南台
向田橋	中野区南台
たつみ橋	杉並区方南
上水橋	杉並区方南
方南橋	杉並区和泉
方南第一橋	杉並区和泉
辨天橋	杉並区和泉
(仮設橋)	杉並区和泉
和泉橋	杉並区和泉
一本橋	杉並区和泉
番屋橋	杉並区和泉
中井橋	杉並区和泉
宮前橋	杉並区和泉
栄泉橋	杉並区和泉
神泉橋	杉並区和泉
蔵下橋	杉並区和泉
明風橋	杉並区永福
永高橋	杉並区永福
ひまわり橋	杉並区永福
永福橋	杉並区永福
かんな橋	杉並区永福
神田橋	杉並区永福
幸福橋	杉並区永福









+\* \* \*+ オフィス 地図豆 yamaoka mitsuharu +\* \* \*+